

富山方言における主題を表す助詞としての「チャ」の用法

高瀬 衣庸

(ロシア・東欧課程 ロシア語専攻)

キーワード：富山方言，主題提示，「チャ」，共通語との対比

0. はじめに

本稿は、富山方言における主題を表す助詞としての「チャ」(以下、富山方言の「チャ」と表記する)の用法をアンケート調査により明らかにすることを目的とする。ここで言う富山方言とは、富山県全域で話されている方言を指す(ただし、五箇山を除く。これを除くのは、県内の他地域との方言差があるためである)。なお、筆者は富山県魚津市の出身であり、富山方言を母語とする。

下野 (1983)によれば、富山方言は、全体的に県内の地域差はそれほど大きくはないが、一般に呉東・呉西・五箇山という3区画に分けられる。

下野 (1983)が、富山方言は、全体的に県内の地域差はそれほど大きくはないと述べていること、小西 (2004)が、五箇山には県内の他地域にない独特の方言が見られると述べていることの2点から、本稿での研究対象は五箇山を除く富山県全域とする。

1. 先行研究

本稿では、富山方言の「チャ」を共通語と対比し、その用法を分類している小西 (2005)をまとめる。なお、小西 (2005)は富山県全域を研究対象としている。

小西 (2005)は、富山方言の「チャ」について、共通語の「とは」や「という＋名詞＋は」、「って」に対応していると述べている。これによって「チャ」の用法を以下の4つに分類している。

- ① 共通語の〈引用の助詞「と」＋提題の助詞「は」〉に対応する用法
- ② 共通語の「とは」や「って」にはほぼ対応する提題の助詞としての用法
- ③ その他の用法
- ④ 富山方言の「チャ」が用いられない場合

次に、小西 (2005)による分類を次ページの表1にまとめる。①～③についてはほぼ表のようにまとめられる。④についてはさらに詳しく述べられていることがあるため、これを表の後に載せる。なお、表中の例文番号は筆者による。

表 1: 小西 (2005)をもとにまとめた富山方言の「チャ」の用法

分類	下位分類	例文	意味
①		(1) アンタモ行く <u>チャ</u> 思ワンダ。 (あなたも行く <u>とは</u> 思わなかった。)	対比
②	言葉を再現して提示する	(2) A: チョット 田中サントコ 行ッテクッ <u>チャ</u> 。 (ちょっと田中さんのところに行ってくるよ。) B: 田中サン <u>チャ</u> 誰ケ。 (田中さん { <u>って</u> / <u>というのは</u> / <u>とは</u> } 誰?)	引用
	物事の属性・表現・存否について述べる	(3) 田中サン <u>チャ</u> 意外ニ マジメダネー。 (田中さん { <u>って</u> / <u>という人は</u> } 意外にまじめだね。)	主題提示
③	一時的な状態を表す	(4) 太郎 <u>チャ</u> 今 アソコデ 働イトンガダト。 (太郎 <u>って</u> 今あそこで働いているんだって。)	
	指示語を前接語とする	(5) アレ <u>チャ</u> 何ダロカネー。 (あれ <u>って</u> 何だろうか?)	
	「名詞 + 助詞」、「名詞 + 断定デ」、動詞のテ形に接続する	(6) 北海道ニ <u>チャ</u> 行ッタコトアル? (北海道に <u>は</u> 行ったことある?) (7) ソノアト <u>チャ</u> ナラ ドイ シゴト アシクラデ <u>チャ</u> シトラレタ。 (そのあと <u>は</u> じゃあどういふ仕事を芦畷で <u>は</u> しておられた?) (8) そして、なかなか思うように風呂の中へつかって <u>ちゃ</u> おれんだとお。 (そして、なかなか思うように風呂の中につか <u>って</u> は <u>い</u> られなかったそうだ。)	対比
④	引用の「と」単独に対応する	(9) ??今日雨降ル <u>チャ</u> ユータ。 (今日雨が降ると <u>言</u> った。)	
	終助詞的に用いられる	(10) ??イマサラ帰りタイ <u>チャ</u> 。 (今さら「帰りたい」と <u>は</u> 。)	
	存在についての確認要求を行う	(11) *焼肉食イ放題 <u>チャ</u> アンネカ? (焼肉食い放題 <u>って</u> あるじゃない?)	

④ 富山方言の「チャ」が用いられない場合

小西 (2005)は、主題を表す表現において富山方言の「チャ」が用いられない場合として、以下の3つを挙げている。

A. 引用の「と」単独に対応する場合

- (9) ??今日雨降ルチャ ユータ。
(今日雨が降ると言った。)

小西は(9)について以下のように述べている。

この文が用いられるとすれば、「雨が降るとは言ったが、雪が降るとは言っていない」など、やはり共通語の「と+は」に対応する、《対比》の意味を含む場合である。

(小西 2005: 101)

B. 「とは」で言いさして終助詞的に用いられる用法

- (10) ??イマサラ帰りタイチャ。
(今さら「帰りたい」とは。)
- (10') ??イマサラ帰りタイチャネ。
(今さら「帰りたい」とはね。)

小西 (2005)は(10)を挙げた上でさらに、「共通語の場合、「とは」に終助詞の「ね」などが直接付く場合もあるが、その場合も富山方言の「チャ」は用いられない(小西 2005: 103)。」としている。

C. 存在についての確認要求を行う用法

- (11) *焼肉食イ放題チャ アンネカ？
(焼肉食い放題ってあるじゃない？)
- (11') コノ辺ニ 焼肉食イ放題チャ アル？
(この辺に焼肉食い放題ってある？)

小西 (2005)は、この用法の例として(11)を挙げ、「あるだろう？」、「あるじゃない？」のような確認要求ではなく、「ある？」と存在について尋ねる場合には「チャ」も、問題なく用いられる(小西 2005: 103)。」としている。

富山方言における主題を表す助詞としての「チャ」についての先行研究は、筆者が探したところ、小西 (2005)のみであった。このことから、筆者は小西 (2005)が述べている富山方言の「チャ」の用法が全て正しいと言えるのか一つ一つ調べてみる必要があると考えた。

また、対応する共通語は、「とは」、「って」だけなのであろうか。小西 (2005)で述べられている用法以外にも、共通語には主題を表す「は」、「なら」等の助詞がある。このことから、筆者は富山方言の「チャ」の持つ意味範囲をさらに明確にする必要があると考えた。

2. 研究目的と方法

今回筆者が行った研究は、以下の2点を目的としたものである。

- (i) 小西 (2005)で述べられていることの確認
- (ii) 小西 (2005)で述べられていない用法の調査

今回の研究では、以上の2点を調査するためのアンケートを作成し、富山方言話者に回答してもらうという方法で調査を行った。コンサルタントは発表者の親類・知人を中心に、富山県出身の男女、計60名(男性20名、女性40名)である。内訳(人数の後の()内は男女の内訳を示す)は、若年層(～20歳)2(0/2)名、壮年層(21～40歳)28(6/22)名、中年層(41～60歳)21(7/14)名、老年層(61歳～)9(7/2)名である。

アンケートの形式は、主題を表す助詞の部分に下線を付けた共通語で表された例文を示し、下線部を富山方言の「チャ」に言い換えることができるか回答してもらうというものである。回答方法としては、下線部を富山方言の「チャ」に言い換えるとごく自然に使えるという場合は◎、普段使わないが使っても不自然ではないという場合は○、普段使わないし使うと若干不自然な感じがするという場合は△、普段使わないし使うと明らかに不自然であるという場合は×、以上の4段階で答えてもらった。

アンケートに使用した例文の内容は以下の通りである。a～mは小西(2005)で述べられていることを確認したもの、n～tは小西(2005)で述べられていない用法を調査したものである。n～rに関して、共通語における主題を表す助詞の分類は、益岡・田窪(1992)『基礎日本語文法』にならった。s, tは筆者自身が考えた項目である。a～tの20の用法について2つずつ例文を用意し、アンケートを作成した。

- a. 共通語の〈引用の助詞「と」+提題の助詞「は」〉に対応する用法
- b. 共通語の「とは」、「って」にはほぼ対応する用法—言葉を再現して提示する用法
- c. 共通語の「とは」、「って」にはほぼ対応する用法—物事の属性や評価や存否について述べる用法
- d. 一時的な状態を表す述語の場合
- e. 指示語を前接語とする場合
- f. 「名詞+助詞」に接続する用法
- g. 「名詞+断定デ」に接続する用法
- h. 動詞のテ形に接続する用法
- i. 引用の「と」単独に対応する場合
- j. 「とは」で言いさして終助詞的に用いられる用法
- k. 「とは」で言いさして終助詞的に用いられる用法—「とは」に終助詞の「ね」などが直接付く場合
- l. 存在についての確認要求を行う用法

- m. 存在について尋ねる場合
- n. 格助詞に後続する「は」
- o. 格助詞が表現されない「は」
- p. 述語(状態述語)が主題の属性を表す場合の「は」
- q. 述語(動態述語)が主題の属性を表す場合の「は」
- r. 相手が持ち出した話題を主題として情報を与える場合の「なら」
- s. 「～なら○○だ(例:「男なら根性だ。」)」の「なら」
- t. 一般論を表す文章

3. 調査結果と考察

3.1. 小西 (2005)で述べられていることについての分析

以下に、小西 (2005)で述べられていることについての項目の調査結果をグラフで示す。グラフは左から、◎と○の合計が多い順に並べる。なお、本稿ではアンケートの回答◎と○、△と×それぞれの合計数が全体の7割以上である場合、結果がはっきりと出たと考えることとする。

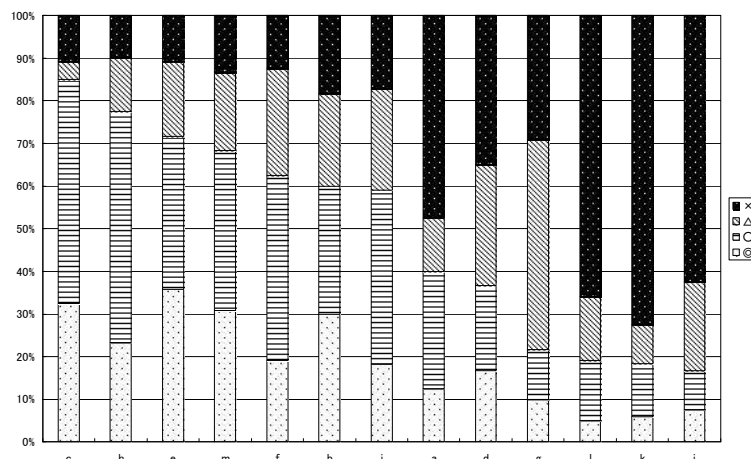


図 1: 小西 (2005)で述べられていることについての調査結果

3.1.1. 富山方言の「チャ」が使えるという結果が出た項目

c. 共通語の「とは」、「って」にほぼ対応する用法—物事の属性や評価や存否について述べる用法、e. 指示語を前接語とする場合、h. 動詞のテ形に接続する用法の3項目については、富山方言の「チャ」が使えるという結果が出た。これは小西 (2005)に裏付ける結果になったと言えるだろう。

3.1.2. 富山方言の「チャ」が使えないという結果が出た項目

g. 「名詞+断定デ」に接続する用法、j. 「とは」で言いさして終助詞的に用いられる用法、k. 「とは」で言いさして終助詞的に用いられる用法—「とは」に終助詞の「ね」などが直接付く場合、l. 存在についての確認要求を行う用法の4項目については、富山方言の

「チャ」が使えないという結果が出た。j, k, lは小西 (2005)に裏付ける結果になったと言えるだろう。しかし、g「名詞+断定デ」に接続する用法について、小西 (2005)では富山方言の「チャ」の用法として挙げられている。gには次の例文を用いた。以下、例文番号は1章での例文番号と区別して[]で示す。

[1] あなたは大学では何を専攻していたの？

この文に対比の意味を持たせて次のような文にすると、筆者の内省によると富山方言の「チャ」が使える。

[1'] あなたは高校では理数科だったけど、大学では何を専攻していたの？

このことから、対比の意味を持つ文の場合、富山方言の「チャ」は「名詞+断定デ」に接続する用法を持つと考えられる。

3.1.3. 富山方言の「チャ」が使える、使えないという結果がはっきりと現れなかった項目

a. 共通語の〈引用の助詞「と」+提題の助詞「は」〉に対応する用法、b. 共通語の「とは」、「って」にほぼ対応する用法一言葉を再現して提示する用法、d. 一時的な状態を表す述語の場合、f. 「名詞+助詞」に接続する用法、i. 引用の「と」単独に対応する場合、m. 存在について尋ねる場合の6項目については、富山方言の「チャ」が使える、使えないという結果がはっきりと現れなかった。これらの項目については、例文(各項目に例文を2つずつ用いた)によって結果に差が出た。「チャ」の前が名詞であるものは富山方言の「チャ」が使い、「チャ」の前が一つの文として成り立つ節であるものは富山方言の「チャ」が使えないという回答が多かった。恒常的なことを表す文には富山方言の「チャ」が使い、一時的なことを表す文には富山方言の「チャ」が使えないという回答が多かった。先述した3.1.2.の項目gのように、文に対比の意味を持たせると富山方言の「チャ」が使えるようになるというものも多かった。

3.2. 小西 (2005)で述べられていないことについての分析

以下に、小西 (2005)で述べられていないことについての項目の調査結果をグラフで示す。グラフは共通語の「は」について調査を行った項目と共通語の「なら」について調査を行った項目の2つに分けて示す。なお、グラフの並べ方は3.1. に準ずる。

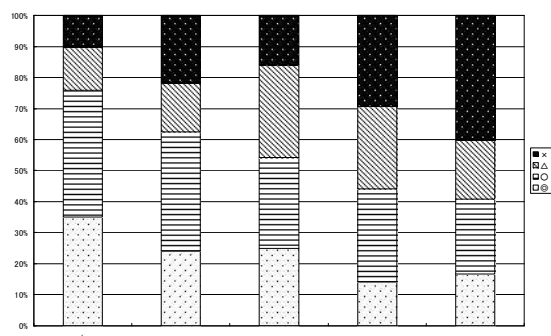


図2: 共通語の「は」についての調査結果

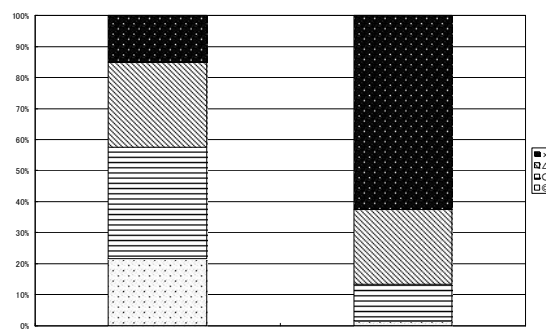


図3: 共通語の「なら」についての調査結果

3.2.1. 共通語の「は」

共通語の「は」について調査を行った5項目のうち、t. 一般論を表す文章は、富山方言の「チャ」が使えるという結果が出た。他の4項目(n. 格助詞に後続する「は」、o. 格助詞が表現されない「は」、p. 述語(状態述語)が主題の属性を表す場合の「は」、q. 述語(動態述語)が主題の属性を表す場合の「は」)については、例文(各項目に例文を2つずつ用いた)によって結果に差が出た。指示語がついているもの、一般論的な意味合いを持つものには富山方言の「チャ」が使えるという回答が多かった。先述した3.1.2.の項目gのように、文に対比の意味を持たせると富山方言の「チャ」が使えるようになるというものもあった。

3.2.2. 共通語の「なら」

r. 相手が持ち出した話題を主題として情報を与える場合の「なら」は、富山方言の「チャ」が使えないという結果が出た。s. 「～なら○○だ」の「なら」については、世代による差が見られ、年齢が高いほど、富山方言の「チャ」が使えるという回答が多かった。

3.3. 考察のまとめ

今回のアンケート調査では、20の項目について富山方言の「チャ」が使えるかどうかということ調べた。考察の纏めとして、富山方言の「チャ」がどんな場合に用いられやすいか、どんな場合に用いられにくいかに分析して特徴的であったことを以下に挙げる。

- ・ 恒常的、一般的なことを表す文には用いられやすく、一時的なことを表す文には用いられにくい。
- ・ 名詞の後には用いられやすいが、一つの文として成り立つ節の後には用いられにくい。
- ・ 対比の意味を持つ文に用いられやすい。

アンケート結果を世代別にも見たが、調査項目s. 「～なら○○だ」の「なら」を除き、世代による差はほとんど見られなかった。富山方言の「チャ」の使用において世代による差はほとんどないと考えられる。

4. まとめと今後の課題

今回の調査では、小西 (2005)で述べられていることを確認し、小西 (2005)とは違う結果がいくつか得られた。さらに、小西 (2005)で述べられていないことについても調査し、分析することができた。

今回の調査の問題点は、小西 (2005)で述べられていないことについて調査する際に参考にした益岡・田窪 (1992)は学習書であるため、共通語の詳しい分類に基づいた調査ができなかったこと、調査方法がアンケートによる調査に限定されていたことである。今後は、学習書ではなく共通語における主題を表す助詞を詳しく分類した論文を参考に研究したい。さらに、日常会話を録音した資料を用いるなど、調査方法も広げていきたい。

参考文献

- 小西いずみ (2004)「富山県方言の文法 ―地理的分布と記述研究の視点から―」中井精一・内山純蔵・高橋浩二編『日本海沿岸の地域特性とことば―富山県方言の過去・現在・未来―』28-50 富山: 桂書房
- _____ (2005)「方言文法―引用表現に由来する主題提示の形式を題材に」牧野十寸穂編『國文學』100-104 東京: 學燈社
- 真田信治 (1992)「富山県方言」平山輝男編『現代日本語方言大辞典 第1巻』149-152 東京: 明治書院
- 下野雅昭 (1983)「富山県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 6 ―中部地方の方言―』307-335 東京: 国書刊行会
- 丹羽哲也 (1994)「主題提示の「って」と引用」『人文研究 第46巻』79-109 大阪: 大阪府立大学文学部
- 益岡隆志・田窪行則 (1992)『基礎日本語文法』145-150 東京: くろしお出版